

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成28年12月28日 (2016.12.28)

【公開番号】特開2016-179105(P2016-179105A)

【公開日】平成28年10月13日 (2016.10.13)

【年通号数】公開・登録公報2016-059

【出願番号】特願2015-61878(P2015-61878)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

【手続補正書】

【提出日】平成28年11月11日 (2016.11.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、  
演出を実行可能な演出実行手段と、  
遊技者の動作を検出可能な検出手段と、  
遊技者の動作が検出されたことに応じて、前記演出実行手段による演出に関連する関連調整を実行する調整実行手段と、

を備え、

可変表示に基づく演出が実行されているか否かにかかわらず、前記関連調整が実行可能であり、

可変表示に基づく演出が実行されていないときに前記関連調整が実行されたことに応じて、調整結果が表示され、

可変表示に基づく演出が実行されているときに前記関連調整が実行されたことに応じて、可変表示に基づく演出が実行されていないときに前記関連調整が実行されたときよりも認識性が低い態様にて調整結果が表示される

ことを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

前記関連調整として、出力手段の音量と、発光手段の輝度とが調整可能であり、

前記検出手段のうち第 1 検出手段と前記第 1 検出手段とは対称に設けられた第 2 検出手段とのいずれかによって遊技者の動作が検出されたときに前記音量が調整され、

第 3 検出手段と前記第 3 検出手段と対称に設けられた第 4 検出手段とのいずれかによって遊技者の動作が検出されたときに前記輝度が調整され、

前記第 1 検出手段又は前記第 2 検出手段と前記第 3 検出手段又は前記第 4 検出手段との両方によって遊技者の動作が検出されたときには、前記音量と前記輝度との少なくともいづれかの調整を制限可能である

ことを特徴とする請求項 1 に記載の遊技機。